

2018年9月1日発行

第601号(通算)

発行:奇数月1日

会員購読料:1月10円(年間60円)

一般購読は別途送料

環境づくり・健康づくりのコミュニティ情報紙

環境と健康

発行者

一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~
広島県環境保健協会
佐藤 均
広島市中区広瀬北町9番1号
郵便番号 730-8631
電話 082-293-1511番
振替口座01380-2-27511
URL http://www.kanhokyo.or.jp/



江田島市で給水作業の支援をする当協会職員

江田島市給水作業支援
株式会社水みらい広島が実施している江田島市の給水作業は、7月14日～16日の3日間、

月9日から県内各市町の共助の井戸水の無償での水質検査を開始し、7月末までに487検体の検査を実施しました。水道の復旧が遅れることについて取り組んでいますので、その内容についてご紹介いたしました。

当協会は、広範囲に及ぶ大規模な災害の復興の「助になればとの思いから、微力ながらできることについて取り組んでいますので、その内容についてご紹介いたしました。

延べ9名の職員が給水作業の支援を行いました。

このたびの平成30年7月豪雨災害では、県内各地で多くの方が亡くなられ、甚大な被害が発生しました。亡くなられた方に心よりご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々に、謹んでお見舞い申し上げます。

「平成30年7月豪雨」の災害復興に向けて

微力ながら一助となる取り組みを



日本技術士会の応援要請を受け、7月16、24日の3日間、各

多量の検体を検査する職員(上)被災者支援に提供したラウアボール(左)

協会で100セットを寄贈しました。

士業連絡会の社会貢献に参加

るところです。なお、スリットチボーラーは、J・サーキット株式会社と当協会で100セットを寄贈しました。

義援金による支援

ボランティアが少ない平日を中心に1日に3～4名が交代で被災地のボランティア活動に参加しています。7月末までに延べ36名が活動に参加しており、8月もこの活動は継続して参加しました。

7月6日を振り返って

理事長 佐藤 均

平成30年7月5・6日に恒例の環境保健夏季大学を2年ぶりにグリーンピアせとうちで開催しました。それでも雨がよく降るなと思いながらプログラムは予定どおり進行しました。翌朝、天気予報を確認すると県内のほぼ全域に大雨警報が発令されています。講師をお願いしている中国新聞

私も、数時間後には大

便乗していただきました。その後無事に着いた。その後無事に報告を受け、まずは一安心。

当協会でも、直方に職員の安否確認を行い、全員の無事を確認しましたが、東部支所が床

の永山さんに連絡をす

るところとから、講演は予定どおり行い、講

変な状況になった安浦駅前、黒瀬、熊野を経由し、2時過ぎに協会に到着しました。

そして、翌日、7日未明のニースを見て愕然としました。呉市、坂町、広島市など県内各地に大変な被害が起き、8月13日現在、死者113名、行方不明者6人、被災家屋1万7千725棟と自然災害としては広島県最大の被害となってしましました。

一方、被災地支援として、当協会の機能を発揮すべく、冒頭記載の通り、勤務免除や公用車の利用等勤務に際し無理のないよう柔軟な処置を講じました。

一方、被災地支援として、当協会の機能を発揮すべく、冒頭記載の通り、勤務免除や公用車の利用等勤務に際し無理のないよう柔軟な処置を講じました。

今後、百年に一度の大

上浸水し、職員3名に床下浸水と車の被害が確認されました。また、9日からの通勤困難者のボランティア活動に参加しました。

災害復興にあたり、災害復興ボランティア

災害からの復興には長い期間が必要となりますが、当協会はこれからもできるかぎり復興に向けた支援を継続して参ります。一日も早い復興を心よりお祈り申上げます。

組織的に動く体制が整えており、それぞれのセクションで機能を發揮しています。

災害復興に役立てていただくため、中国新聞社会事業団を通じて被災者へ100万円の義援金を送りました。



一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~
広島県環境保健協会

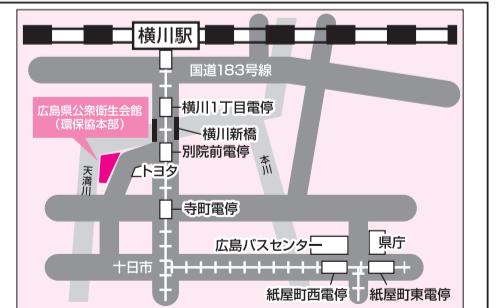
〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)

TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520

かんほきょう 検索

基本理念

~みんなの生命(いのち)をまもりたい~
私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、地域社会の発展に貢献します。





夏季大学講演概論

「豊かな海」へ向け地域ごとに行動を



中国新聞社
永山啓一
記者様

瀬戸内海の環境問題は、1970年代の赤潮が頻繁に発生し、海水質が汚れている「富栄養化」の状態となりました。漁業者の評価の中では、今よりも昔の海が良かつたという人が多くあり、かき・ワカメ・海苔を養殖するため、海に肥料をまく、下水処理場から

(合同研修)は、市町公衛協推進委員、事務局担当者を対象とした宿泊研修で、体験交流を通して今後の環境保健・公衆衛生の向上と活動の活性化をねらい

講演をいたいた講師の永山氏は、2003年に中国新聞社に入社し、山口支社、岡山支局を経て、2016年3月から報道部に勤務され、同年の11月から17年6月まで、年間企画班の一員として、連載記事「海に聞く 濱戸内再生」を担当されました。

今回は、この連載記事の執筆に関わった取材体験を基に瀬戸内海の現状についてお話をいただきました。

第57回環境保健夏季大学報告

2日目は、豪雨のため、急きよ午前中までとし、講演(左記事参考)

照と1万人の食チェック事業のお楽しみ抽選会を実施して、終了しました。

「環境と健康のコミュニティ活動助成事業活動報告」 4団体が事業報告

環境と健康の「ミニユーニティ活動助成事業は平成29年度に10周年を迎えており、多くの対策が取り組まれているのが現状です。

2つ目の問題はプラスチックごみで、瀬戸内海ではかき養殖に使用するパイプの漂着が多く見られます。国際的にもストロー・やレジ袋などのプラスチック製品の使用が禁止される動きがあります。景観悪化・航路の障害、生態系への悪影響など、新たな脅威となつており、このままでは広島ブランドのかきのイメージ低下と共に不買運動による経済的な影響も出かねない状況です。

3つ目の問題が、海水酸性化です。森林に吸収されるCO₂はグリーンカーボンと呼ばれ、酸性化に大きな影響を及ぼしていますが、これはそれ以上に海洋に吸収されるCO₂は多く、ブルーカーボンと呼ばれて、広く知られていますが、これがにより、貝類の成長を阻害するなどの実

害も出てくる方で、広島市内の魚売り場では、エコラベルが表示されるお店も始め、消費者の方々へ「」を意識した買い物をすることがお勧めしています。

現在の瀬戸内海は、子どもの「海離れ」が進み、高齢者にとっては楽しいところであつても子どもにとっては楽しくない場所となつていて。ぜひ、子どもを海に連れて行ってください。

映画「この世界の片隅」の場面では、昭和初期の広島の様子が描かれ、主人公のすずさん江波から草津まで歩いて行ったのに驚かされました。主人公のすずさんは江波から草津まで歩いて行ったのに驚かされました。主人公のすずさんは江波から草津まで歩いて行ったのに驚かされました。

今年度は、全県の推進委員9千074人のうち38.1%にあたる3千457人が参加し、昨年度の実践率(38.3%)をわずか0.2%下回りました。

公衛協別にみると、最も高かつたのが坂町で100%、次いで竹原市(84.9%)、大崎上島町(83.3%)でした。

昨年度と比較して実践率の上昇率が高かったのは、廿日市市(11.3%)、江田島市(10.5%)、世羅町(10.1%)で、実践率50%を達成した公衛協は1団体でした。

お楽しみ抽選会の景品は、塩分濃度計やデジタル体脂肪計、非常

1万人の食チェック事業 23公衛協・3千457人の推進委員が参加

平成30年6月19日から1週間、約1万人の公衆衛生推進委員を対象に、毎日の食事で摂取した食品をチェック

協「紙芝居作成(アイドリング・ストップ物語)」平成26年度、東広島市川上地区「川上スマイルフラワー大作戦」平成28年度、平成29年度、福山市

泉学区「学社融合」、「力に!!継続は力なり」平成26年度、平成27年度、世羅町小国地区「環境と健康のミニユーニティ活動助成事



オリジナルの紙芝居を披露する大崎上島町公衛協(上)、学校とのつながりや継続の成果を発表する福山市泉学区公衛協(中)、熱心に聴講し、質問する参加者(下)



実践率BEST3の表彰

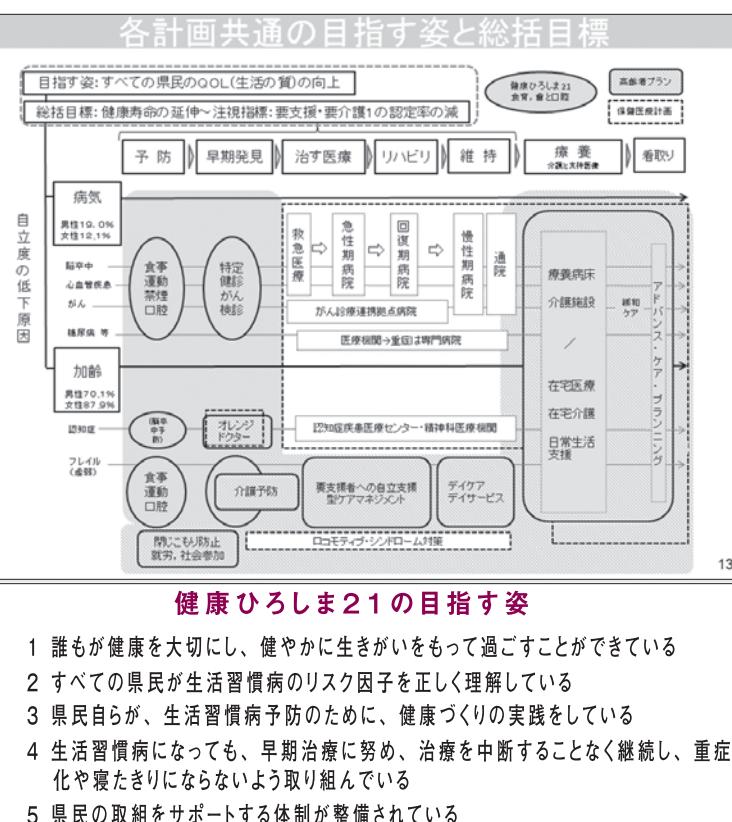
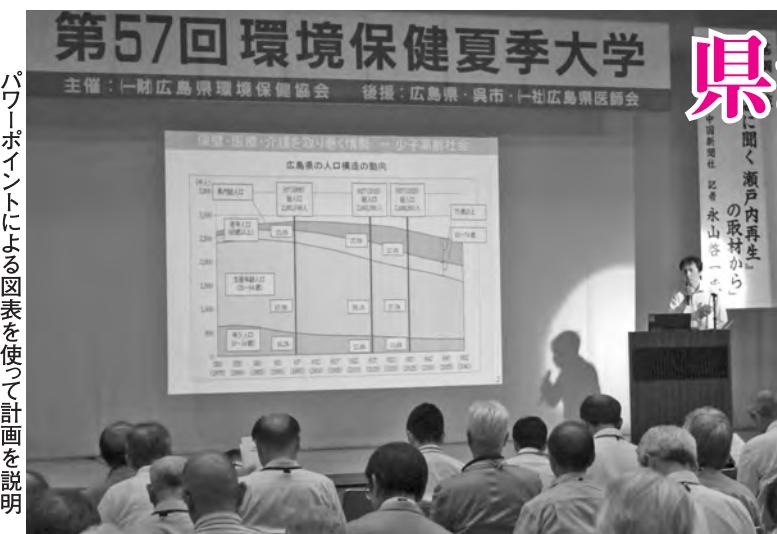
には、多くの多様性、生産性向上の取り組みを加え、「豊かな海」へ向けて、地域ごとに行動をしていきました。

思っています。割合70%以上に対する現状に注目したいと

食べで缶に入ったパン、保冷材入りクールネット、クタオル、熱中症警告付温湿度計、ヒノキ間伐材を使った木製うちは、器や料理の形にくわ、り抜いた実物大カードで、楽しみながら量やバランスを考え料理を選び組み合わせる食育教材「バイキングカード」です。公衛協活動にご活用ください。

提出された食チェックカードは3千457枚でした。アンケートでは、「変参考になった」「参考になつた」などの感想がありました。

になった」が78%、「苦労されている事が理解できた」「いろいろな活動事例の背景やヒントが把握できた」「参考になつた」などの感想がありました。



県が環境と健康の計画を策定

夏季大学で情報提供

広島県

広島県では、環境・健康に関する各種の計画や施策が策定されています。中でも、健康分野では2025年に向けた各種の計画が見直され、その中から地域の中で取り組むことなどについて、また、環境分野においても第4次広島県環境基本計画において取り組むことから、今後展開される国の第5次環境基本計画の骨子についても説明いただき、今後の環境保健・公衆衛生のあり方について情報提供いただきました。

2025年に備える

保健・医療・介護等に関する計画策定における基本的な考え方



広島県健康福祉局
経営企画監 齊藤一博様

広島県では、2025年には全県民に占める65歳以上の割合が31%を超え、75歳以上の割合は19%を越えます。このことから始まる健康・

医療・介護に関する第2次健康ひろしま21(中間見直し)や第7次保健医療計画、第7期高齢者プラン等の基本計画を二段的に策定しました。総括目標に健康寿命の延伸を掲げ、日常生活支援までを含めて包括的に提供していくことを目指します。また、生活の質(QOL)の維持・向上の観点から、住み慣れた地域で尊厳を保ちながら自分らしく生活できるよう努めます。

くじらも進めます。

健康ひろしま21では、

生活習慣と社会環境の改善を進めつつ、生活

習慣病の発症予防・重症化予防、高齢者の社会参画の推進などに取り組みます。また、生活の質(QOL)の維持・向上の観点から、住み慣れた地域で尊厳を保ちながら自分らしく生活できるよう努めます。

居住地域を問わず高品質で安心できる保健医療を地域包括システム

るような「ミニユーティブ」

くじらも進めます。

健康ひろしま21では、

生活習慣と社会環境の改善を進めつつ、生活

習慣病の発症予防・重症化予防、高齢者の社会参画の推進などに取り組みます。また、生活の質(QOL)の維持・向上の観点から、住み慣れた地域で尊厳を保ちながら自分らしく生活できるよう努めます。

居住地域を問わず高品質で安心できる保健医療を地域包括システム

と一体的に提供できる体制の構築を目指します。高齢者プランでは、地域包括ケアシステム

の強化と高齢者の社会参画を促進します。がん対策推進計画では、早期発見・がん検診、在宅緩和ケアの充

実、治療と仕事の両立支援を行ないます。県民一人ひとりが、仕事や暮らしに対して抱く希望を「かなえられ

る」と感じることで、共に取り組んでいきましょう!と呼びかけられました。

エコの力で広島を元気に



環境政策課 参事 西川秀敏様

環境に関する各種計画と施策について

広島県の環境政策は、「ひろしま未来チャレンジ」として、環境基本計画や廃棄物処理計画、防止地域計画、地球温暖化防止地図などを総合計画で定めています。環境保全に関する県計画、生物多様性広島戦略などの分野別計画で詳細を定めています。

地域特性に応じた事業の具体化を推進することとしています。循環型社会の実現に向けては、廃棄物の資源化を進め、産業連携によるリサイクル技術の開発などを支援します。

また、低炭素社会の構築では、家庭部門の温室効果ガス削減をするため、関心を持

つ→手軽に行動する高い意識で行動するの3ステップで取り組みます。省エネをWEBで呼びかける「ひろしまエコチャレンジ」などを通じて、多様な省エネ活動をP.R.するほか、再生可能エネルギーの導入促進、里山バ

イオマスの利活用を進めます。

瀬戸内海の環境保全などの地域課題に多様な主体が連携して取り組みます。環境負荷の少ない社会を支える人づくり・仕組みづくりを設置して海ごみ対策にも取り組みます。

最後に、環境負荷の少ない持続可能な社会の実現に向けて公衛協

の皆さんの協力をお願

いします!と呼びかけられました。

